

みこし型から野球型へ

10月も中旬、いよいよ秋祭りの季節、祭りばやしの笛や太鼓の音など日本の文化を感じる今日この頃です。

また、プロ野球もセ・リーグが圧倒的な勝ち方、優勝直前はもたついたものの何度も繰り返された逆転及びサヨナラゲーム、故障者がいても、それをカバーする選手層の厚さが目立ち、ピッチャーも勢揃いの投打のバランスの取れた広島東洋カープが3年連続でぶっちぎりの優勝！！

一方、パ・リーグでは、何ととっても、往年の秋山・清原・デストラーデを彷彿させる1～9番まで一発のある打者が揃った強力西武打線、菊池雄星投手の鉄腕など、開幕から好調を維持し、投打がガッチリ、かみ合った西武ライオンズが、チャンピオンフラッグを手に入れました。

秋祭りの名物に「みこし」があります。一見、「みんな、仲よく、おみこしワッショイワッショイ」と楽しそうです。しかし、考えてみると、みんなが同じ役割を同じように分担させられ、身長の高いものだけがみこしを担ぎ、低いものはただぶら下がっているだけのようにも思います。

一方、野球は、その点が明らかに違います。つまり投手は投手として、捕手には捕手としての役割があります。また、1番バッターは1番として、4番バッターは4番としての役割があります。その役割が一人一人違う9人が集まって野球チームを組み、プレーをするということです。

このことは、子どもたちを生かすという点で重要なことです。野球型のように一人一人に自分の責任を持たせることで子どもは大活躍すると考えます。

それから、野球型のよさをもうひとつ。野球の試合中には三振したり、エラーしたりすることもあるでしょう。そんな時、「ドンマイ、ドンマイ」「打たせろ、飛んできた球は全部取るから」など励ましの言葉をかけることでチームの結束が強くなるところが素晴らしいと思います。

駒形小ホームページ

喜多方市立駒形小学校検索

または右記のQRコードよりアクセス

